坂戸市立上谷小学校
学校だより 8・9月号
令和７年８月２７日
校長　新谷　源大

上谷の丘

学校教育目標
笑顔で
かしこく
たくましく

「自分も他者も大切に、聞いて考え行動し、挫けずやり抜く子どもを育てる学校」

長い夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。子供たちの元気そうな顔を見て、声を聞いて、私たち教職員も活力をもらいました。大きな行事が多い2学期の良いスタートを切ることができました。

6年生は修学旅行、5年生は宿泊学習、4年生から1年生は校外学習、そして音楽会等様々な行事があります。こうした体験的な学習をとおして、子供たちが仲間と課題を解決していく楽しさを味わえるようにしたり、困難なことに対して助け合い補い合いながら取り組むことで協働性を養ったりできるよう、教職員一同子供たちを指導、支援してまいりますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。

始業式で、以下のような話をしました。

【課題】「ドラえもんの道具を使って、自分の生活をよりよくしましょう」

① 「どこでもドア」「ほんやくコンニャク」「タイムマシン」「タケコプター」「もしもボックス」の中から一つ選びます。

② 選んだ「理由」を、となりのペアで話を聴き合いましょう。

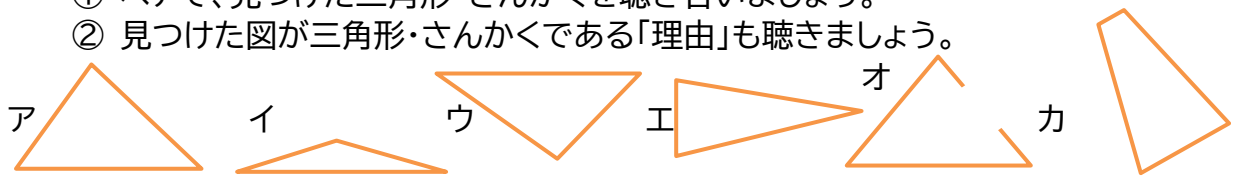
子供たちは各教室で、自分が選択した道具について、選択した理由を楽しそうに話し、聴いていたようです。

次は、三角形・さんかくの定義（三つの点があり、三つの点を結ぶ三つの線分でできる図形）を確認したあと、

【課題2】「次の図から、三角形・さんかくを見つけましょう」

① ペアで、見つけた三角形・さんかくを聴き合いましょう。

② 見つけた図が三角形・さんかくである「理由」も聴きましょう。



③ 「オ」と「カ」は、三角形・さんかくと言えるでしょうか。言えないでしょうか。その「わけ」は何でしょう。ペアの人の考えを聴き合いましょう。

子供たちは、見つけた三角形を言いたくて仕方ない様子だったようです。

今回の話の振り返りでは以下の3点について子供たちに聞きました。

- 自分の考えをペア・仲間に聞いてもらえましたか。そのときの気持ちはどうでしたか。
- ペア・仲間の考えを聞けましたか。
- 難しいと思ったとき、困ったときもペア・仲間に聞きましょう。

話したいことができると、子供はついつい自分のことを一方的に話してしまいがちで、聞くことがおろそかになってしまいます。聞いてもらえる喜びから、聴き合い、話し合える学習活動につなげていきたいと考えております。ご家庭でも意識していただけると有難いです。

【夏休み中　先生たちも勉強を頑張りました】

この夏季休業中、本校職員は子供たちがより楽しく学習できるように、より安全に学校で過ごせるように研鑽を積んでおりました。市内全体で実施された**「体育実技研修会」**では、子供が思わず体を動かしたくなる運動を学んできました。校内では、思いやりある上谷っ子の育成に向け**「道徳研修会」**を実施しました。また、子供が安心して学校で過ごし、人権意識を養えるよう**「人権教育研修会」**を実施しました。そして、学校の安全に向けた**「不審者対応訓練」**では、西入間警察署員の方を講師に招き、実技研修をしました。その他にも様々な研修に取り組みましたので、今後の子供たちへの指導に生かしていきます。

【平和について】

夏休みだからできることを考え、私は狭山市の自宅から川越市の喜多院を目指してウォーキングをしました。距離にして12㎞程度でした。喜多院を後にし、成田山、熊野神社と市内の寺社を巡り、蓮馨寺（れんけいじ）の境内に入ると「原爆絵画展」が催されていたので入館しました。そこには被爆した方々が当時を思い出して描いた絵が展示されていました。やけどで皮膚がただれたまま家族を探している人、熱線で焼かれた体のため水を求めて本川に飛び込む人々など、筆舌に尽くしがたい原爆による被害、原爆の実相の一端を重く受け止めました。

実は、7月のお話朝会のとき「平和について」子供たちに話をしました。世界で今もなお続く二つの戦争のこと、日本にも戦争があったこと、8月6日・9日・15日は平和を祈念する日であることなどを伝え、夏休みにお家で平和について考えたり、話したりしてみましょうと話しました。

広島と長崎の平和祈念式（典）における、湯崎広島県知事のあいさつと鈴木長崎市長の平和宣言、そして子供代表の平和の誓い（広島）から考えさせられました。湯崎知事は**「……このような世の中だからこそ、核抑止がますます重要だと声高に叫ぶ人たちがいます。しかし本当にそうでしょうか。確かに、戦争をできるだけ防ぐために抑止の概念は必要かもしれません。……古代ギリシャの昔から、力の均衡による抑止は繰り返し破られてきました。なぜなら、抑止とは、あくまで頭の中で構成された概念又は心理、つまりフィクションであり、万有引力のような不変の物理的真理ではないからです。・・・・・・」**(*1)と語りました。武力による抑止は、どちらかの都合のために作り上げられたものということであり、だから破られるということでしょう。ただ**「……抑止力とは、武力の均衡のみをさすものではなく、ソフトパワーや外交を含む広い概念であるはずです。……抑止力から核という要素を取り除かなければなりません。……」**(*1)と語られました。では、どうすればよいのでしょう。

鈴木市長は、地球市民という概念を用いて世界の人々の力を結集し、未来を切り開くよう伝えます。**「……被爆者は行動でそう示してきました。初めの一歩は、相手を知ることです。対話や交流を重ね、互いに理解し、小さな信頼を重ねていく。これは、私たち市民社会の大きな役割です。……」**(*2)というところに大きなヒントがあるように思いました。

また、子供の目線からは「平和への誓い」で次のように具体的に語られました。**「……その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。多様性を認め、相手のことを理解しようとすること。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないでしょうか。……」**(*3)

日々忙しい毎日ですが、我々大人がもっと平和について考え、子供たちと話さなければいけないと考えた戦後80年の夏でした。

(*1)広島県ホームページより引用　(*2)長崎市ホームページより引用　(*3)広島市ホームページより引用